

第68回埼玉県眼科集談会

【教育セミナー】 令和4年9月4日 15:40～16:40(予定)

ソフトコンタクトレンズによる 老視対策



樋口 裕彦 先生

ひぐち眼科 院長

略歴：

1985年 北里大学医学部卒業 同眼科学教室入局
1991年 北里大学医学部外科系大学院修了 学位を取得
1993年 米国Environmental Health Center-Dallas留学
1996年 北里大学医学部眼科学教室非常勤講師(～2000年)
1999年 武蔵野市吉祥寺にひぐち眼科を開設
2004年 現在の所在地に移転
現在に至る

2021年のソフトコンタクトレンズ (soft contact lens : SCL) 処方傾向をみると、Multifocal lensまたはMonovision法による処方など、積極的な老視対策が行われている割合は世界平均で17%となっているが、日本では超高齢社会を迎えているにも関わらず、何とその割合は僅か6%である。

SCL装用者が、加齢などに伴う近見障害を訴えた場合には、遠方に対する屈折矯正に加えて、老視への対策を考える必要が出てくる。SCLによる老視対策は遠近両用(多焦点)CLだけではなく、いくつかの方法があるが、当然それぞれ一長一短がある。どの方法で、老視対策を行うかはそれぞれの矯正法の利点・欠点を把握した上で、装用者の生活環境に最も適していると思われる方法を選択する必要がある。本日は遠近両用SCLの処方を中心にSCLによる老視対策について皆様と一緒に考えてみたい。